

おでかけりゅうPON

「主権者教育～『いい暮らし』は自分でつくる」

進行案

【日時】

【対象】 高校生、大学生など

【内容】 政治と自分を考える（「18歳」の動機付け）、ワークショップ「『いい暮らし』は自分でつくる」、民主主義社会での権利の行使を知る

【準備】 プロジェクター、スクリーン、ホワイトボード、テーブル1台の準備をお願いします。ワークシートの印刷を生徒の人数分お願いします。

【備考】 4～5人一組になれるように座る。

【ねらい】 身近な生活や社会の仕組みをよくするためには、自分が主体的に知り、考え、決めることが一歩ということを知る。自分たちの行動が歴史をつくっていくことを自覚する。社会や生活に対して自分で意見を形成するための情報の取り方、意見を養う手法を学ぶ。

※ワークショップ時の声掛けなどは先生方もご協力いただき、TTでお願いします。

時間	概要	備考
	1、あいさつ、導入（5分）	
	2、アイスブレイク 私と社会の関わりを知ろう（15分） ① 「18歳」の動機付け 生徒らが18歳になった時に実施される選挙や、自らの生活の変化、社会の行方を予想する ② 新聞の面だてに慣れ、めくって情報に目を通す	ワークシート1の印刷をお願いします。
	3、ワークショップ「『いい暮らし』は自分でつくる」（70分、間に休憩を5～10分はさむ） ①授業実施日の新聞から、気になる記事を探す。 気になる記事の見出しを書き出し、理由を書く。記事に書かれている社会の出来事や問題に対して「こうなったらいいな」と自分の考えや思いを考えて書く。 ②グループのメンバー同士で①を共有する。 ③グループのメンバーが提示した記事から1～2つのトピックを選び、「こうなったらいいな」を実現するための「こうします」という具体策を考える。その具体策を公約とし、それを訴える1人の候補者を誕生させ、ポスターを作成する。 ④全グループの発表。選択の視点を持ち、発表を聞く。	ワークシート2、3の印刷をお願いします。ワークシート2は生徒の人数分。候補者ポスター仕様のワークシート3はA3でグループ分お願いします。

	(時間があれば全グループの候補者で模擬投票などどうぞ)	
	<p>4、まとめ 民主主義と私たちの権利 (15分)</p> <p>①記者がワークショップを振り返りながら、「いい社会をつくるためには、自分たちの意見を出し合うこと(=議論や表現活動)、投票、候補者を育てていくことが大切」ということを伝える。投票以外にも、リコール権など他にも政治参加の形があることを説明する。</p> <p>②琉球新報の戦後史新聞や近年の選挙結果から、投票による社会の変化を実感する。</p>	
	5、質疑応答、アンケートなど	

*ワーク時などの、子どもたちへの声かけは、先生方もご協力ください。